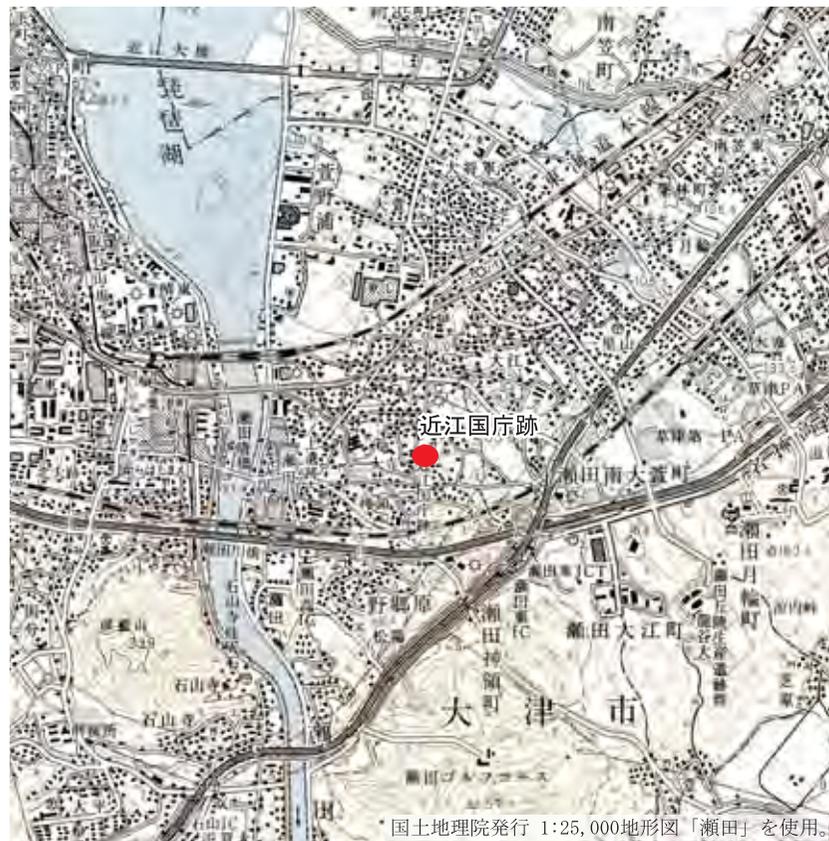


史跡 近江国府跡



行き方：近江国府跡にはJR琵琶湖線石山駅から近江バス瀬田駅行きほか神領団地下車 徒歩約5分
注 意：史跡公園には駐車場がありませんので、公共交通機関でお越し下さい。

史跡近江国府跡周辺でのお願い
近江国府跡では、公共マナーをまもって見学してください。
周辺団地での違法駐車は住民の方々の迷惑となりますので、絶対におやめください。

滋賀県教育委員会

埋蔵文化財活用ブックレット6
近江の史跡1 史跡 近江国府跡
刊 行：平成22年10月31日
編 集：滋賀県教育委員会・大津市教育委員会
制作・刊行：滋賀県教育委員会事務局文化財保護課
住 所：〒520-8577 大津市京町四丁目1番1号
電 話：077(528)4674 FAX：077(528)4956
e-mail：ma07@pref.shiga.lg.jp

印刷：共栄印刷株式会社

目次

近江の中心 近江国府へようこそ…	1
近江国庁跡……………	2
近江国庁の謎……………	4
どうやって見つけたの？……………	4
広場のステージ？……………	5
屋根のない建物……………	6
屋根瓦に浮かぶ雲……………	7
古代の官庁街……………	8
惣山遺跡……………	10
青江遺跡……………	11
中路遺跡……………	12
堂ノ上遺跡……………	13

近江国の中心 近江国府へようこそ

今から約1250年前の奈良時代中頃、大津市瀬田の地に近江国府が造られました。国府とは、近江国（現在の滋賀県）の政治や行政を行なう様々な役所からなる官庁街のようなものでした。

その中心となる近江国庁は、今の県庁と裁判所、警察、税務署などを併せたような役所でした。また、租税を納めていたと考えられる巨大な倉庫群の惣山遺跡や、都と地方を結ぶ東山道に面して造られた堂ノ上遺跡など、様々な遺跡が見つかっています。

このガイドブックでは、瀬田にあるこうした史跡（史跡近江国府跡[国庁跡・惣山遺跡・青江遺跡・中路遺跡]や史跡堂ノ上遺跡）を中心に紹介していきます。

みなさんも、地元にあるこうした遺跡を見にきて、古代の近江国の中心であった瀬田の姿を想像してください。

ぼくの名前は藤原仲麻呂ふじわらのなかまろです。
奈良東大寺の大仏を造った聖武天皇しやうむ てんのうは
親戚のおじさんでした。
ぼくが近江国守（当時の滋賀県知事
のような地位）だった頃、新たに瀬田の国
府が造られました。



本埋蔵文化財活用ブックレットは大津市教育委員会と滋賀県教育委員会が協働して原稿を作成し、滋賀県教育委員会が、国庫補助金（埋蔵文化財保存活用整備事業）を受けて刊行した。

近江国庁跡

近江国庁跡

大津市大江三・六丁目、三大寺にある近江国庁跡は、遺跡公園として整備されています。ここでは、発掘調査によって確認した当時の建物や堀・溝などを地下に保存し、その上に遺構の一部を再現しています。



近江国庁跡の中心

大きな4つの建物がある政庁は、僕（国守）が勤務する場所でした。

正殿前の前庭や了画の脇殿でたくさんの役人がお仕事をしていました。

東西の細長い建物（脇殿）の長さは、西側にある団地の建物よりも長かったよ。



政庁周辺の建物

記録によると国庁では当時、700人～800人の役人が働いていました。

政庁のまわりには、そうした人達が働いていたとみられるたくさんの建物跡が見つかりました。



- : 建物跡（遺構表示）
- : 遺構表示のない主要建物跡
- : 堀跡（築地堀の遺構表示）

近江国庁の謎

近江国庁跡には、普通の公園にはない謎がいっぱいあります。謎の多くは、この場所に来なければ判りません。今回は特別に、その一部を紹介しましょう。

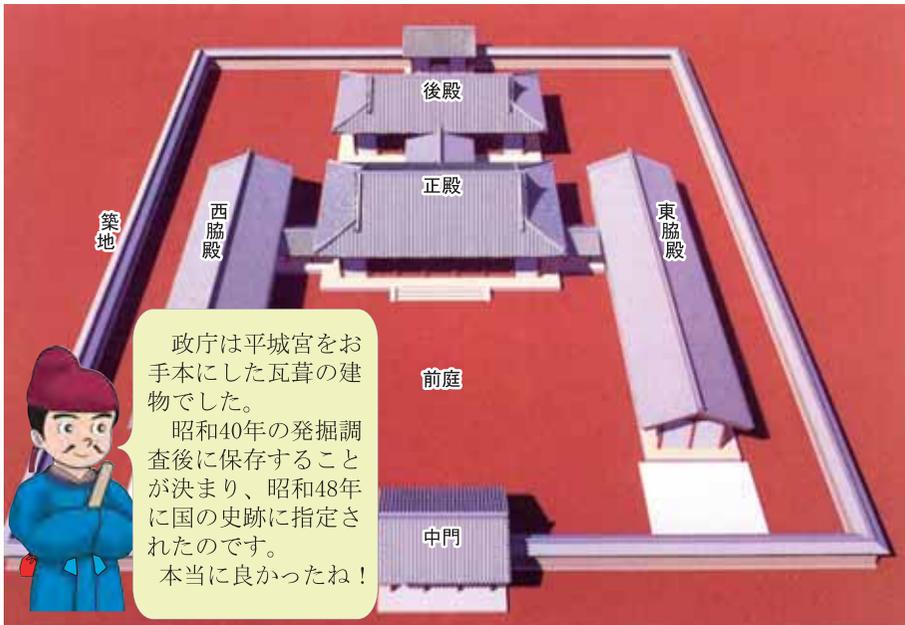
近江国庁の謎①

どうやって見つけたの？



昭和38年に行われた最初の発掘調査

近江国庁は、平安時代中頃に使われなくなった後、どこにあったのか判らなくなっていました。昭和35年に公園の西側にある神領団地を造る時に、地面からたくさんの瓦や土器が発見されたのです。そのため、発掘調査が行われ、ここが近江国庁跡であることが判りました。



近江国庁の中心となる政庁建物の復元図（大上直樹氏復元制作）

近江国庁の謎② 広場のステージ？（東郭 木装基壇跡）

公園の南側の広場に、まわりを木の板で作ったステージ（上の写真）があります。この場所は、比良山や琵琶湖も見える絶好の場所です。

仲麻呂クンの時代には、この上に建つ立派な建物で平城京や東国（今の中部・関東地方など）から仕事で近江にやってきた役人や近江各地の有力者をもてなす宴会などが行われたみたいです。



近江国庁の謎③ 屋根のない建物

公園の西側ひろばには、屋根や壁がない建物があります。これでは雨の日には大変なことになりますね。

でも、これは建設中の建物ではありません。実は、この地下には、古代の建物跡（上の写真）が埋まっているのです。発掘調査では、柱を埋めた穴は見つかりましたが、壁や屋根の構造までは判りませんでした。そのため、復元建物にあえて屋根を造らずにみんなが想像できるようにしています。



この復元建物のと
なりには、高さ50cm
ほどの丸太が並んで
いるよ。
これは何なのかなー。



発掘調査中の建物跡



西側ひろばに建つ骨組だけの建物

近江国庁の謎④ 屋根瓦に浮かぶ雲…



「飛雲文軒瓦」が使われた復元建物

飛雲文軒瓦が屋根に載っている復元建物はこの写真の建物だけです。探してみましょう。



近江国庁跡でみつかった様々な文様の瓦

瓦を使った建物は、古代には天皇の宮殿や寺院・大きな役所にほぼ限られていました。

それは、瓦を作るのに大変な労力と経費がかかったからです。

近江国庁跡では多くの瓦葺建物がみつかっています。

ここで使われた軒瓦（建物の軒先を飾る瓦）[上の写真]には、花をモチーフとした文様の外側に雲のデザインが配されています。

こうした文様を「飛雲文」といいます。

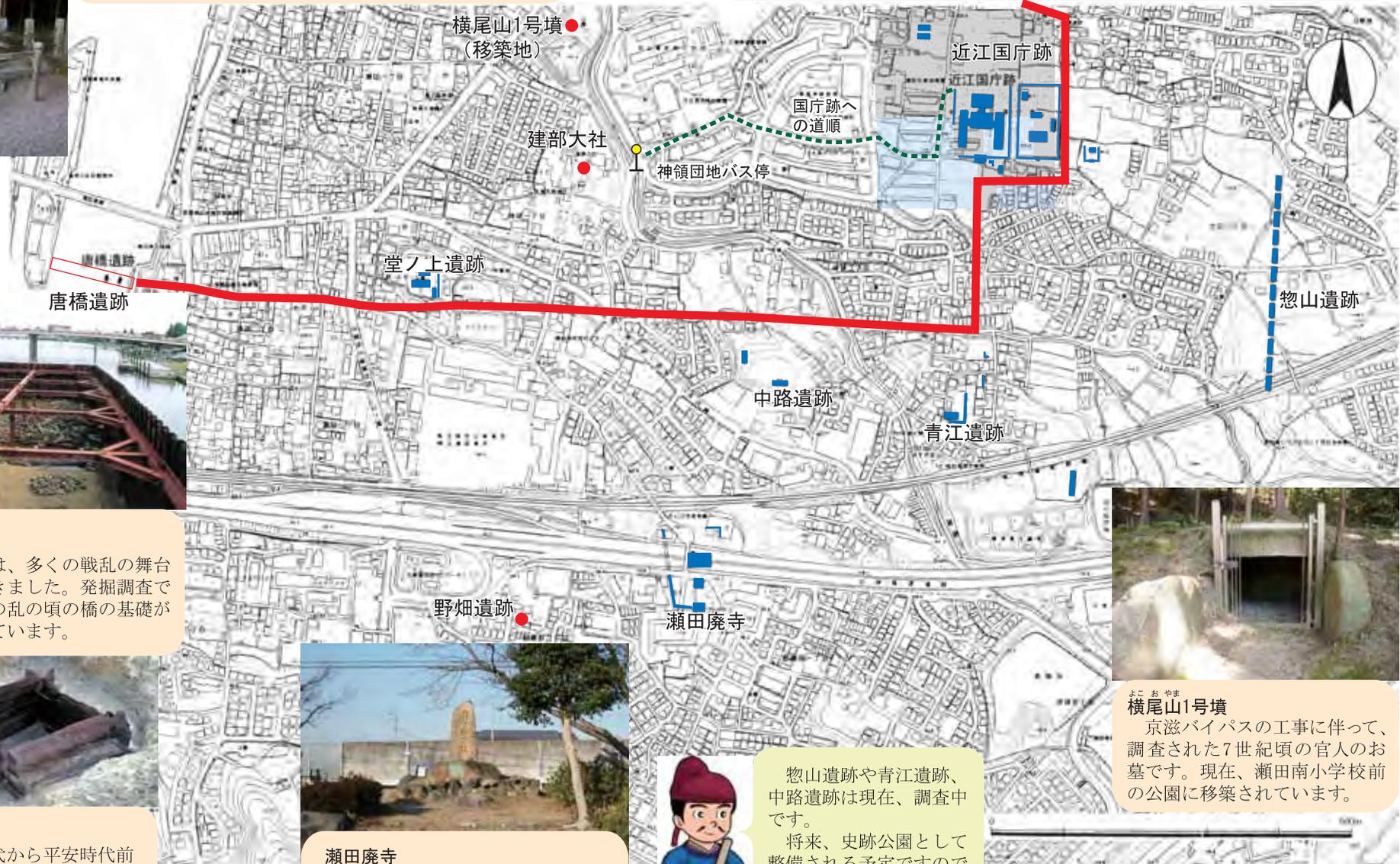
「飛雲文」を使った瓦は、不思議なことに、滋賀県では国庁に関連する遺跡でしか発見されていません。



建部大社

近江一宮です。境内には文永7年（1270）に建てられた鎌倉時代後期の石燈籠（重要文化財）があります。

古代の官庁街 — 近江国庁周辺の遺跡 —



唐橋遺跡

勢多橋は、多くの戦乱の舞台となってきました。発掘調査では、壬申の乱の頃の橋の基礎が見つかっています。



野畑遺跡

奈良時代から平安時代前期の遺跡で、「国分僧寺」と書かれた土器や井戸、瓦窯などが見つかっています。



瀬田廃寺

国庁と同じ飛雲文瓦が見つかっており、奈良時代後期の国分寺と考えられます。塔跡が公園内に残されています。



よこおやま 横尾山1号墳

京滋バイパスの工事に伴って、調査された7世紀頃の官人のお墓です。現在、瀬田南小学校前の公園に移築されています。



惣山遺跡や青江遺跡、中路遺跡は現在、調査中です。将来、史跡公園として整備される予定ですので、もうしばらく待って下さいね！

■ : 古代の建物跡
■ : 古代の道路推定地

そうやま

惣山遺跡 日本最大の大倉庫列

大津市大江六丁目・神領二丁目にある惣山遺跡は、奈良～平安時代にかけての近江国庁に関係した遺跡です。

近江国庁の中門から真東に約400mの地点から、真南に300mにわたって 12 棟の同じ規模の瓦葺礎石建物を配置していました。建物1棟の平面規模は、南北 21m(柱間7間)、東西 6m(柱間4間)で奈良県にある東大寺正倉院の2/3に匹敵します。柱は合計 40本で、高床式の倉庫と考えられます。建物周辺には雨落ち溝がめぐっており、瓦がたくさん出土しました。軒先の瓦には近江国庁と同じ飛雲文と呼ばれる文様があしらわれています。

残念ながら発掘調査では、中に入れられていた物が何だったのかはわかりませんが、12 棟もの巨大な倉庫列は、大国近江の財両区を人々に見せ付けたことでしょう。



惣山遺跡と飛雲

あおえ

青江遺跡 国庁正面の最重要遺跡

大津市神領二丁目・四丁目にある青江遺跡は、近江国庁跡から谷を挟んで真南にある遺跡です。

国庁と青江遺跡は幅20m以上の南北道で結ばれていたと考えられ、最も国庁に関係が深い遺跡です。発掘調査では築地堀で囲まれた敷地が見つかっています。この敷地には、建物が2回建て替えられ、最後には、南北9m(柱間3間)、東西21m(柱間7間)の巨大な瓦葺礎石建物が建てられていました。この建物には、国庁を意識して庇が北側に付けられていました。周りの雨落ち溝からは多くの瓦や土器が出土しています。また遺跡の東南部では、南北27m(柱間9間)、東西6m(柱間2間)の長大な掘立柱建物も見つかっています。

国庁に最も近く、巨大な建物が残っていることから重要な施設であったと考えられます。



青江遺跡の発掘調査

ちゅうろ

中路遺跡 謎の遺跡が少しずつ・・・

中路遺跡は、大津市神領二丁目、近江国庁跡の公園から南西へ約400mの丘の上にあります。中路遺跡のある丘は、大半が竹やぶになっており、最近まで、むかしの屋根瓦が落ちていました。

平成18年から中路遺跡の謎を探るため、発掘調査が行われました。調査では、古代の道路の側溝や2棟の礎石建物がみつかりました。おそらく、道路に面して瓦屋根の建物が建ち並んでいたのでしょう。

ここでは土器や瓦がたくさん見つかりました。その中には、「修」の文字のスタンプが押された瓦があります。この文字は、「修理」の「修」を示す記号と考えられます。当時の役所には、施設の修繕を行う「修理司」があったと推定されており、そうした役所に関係するものと思われます。この瓦は古くなった建物の修繕に使われたものかもしれませんね。



中路遺跡で見つかった建物跡（上）
白い線が引かれた部分が建物の柱があった場所です。



「修」の文字のスタンプが押された瓦（左）

堂ノ上遺跡 古代の瀬田駅!?

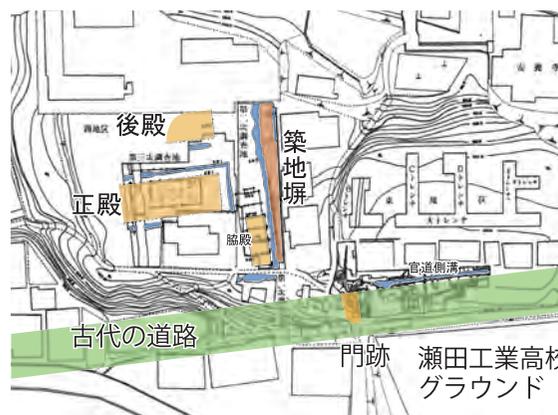
瀬田工業高校の北側の丘にある堂ノ上遺跡（史跡）は、古代の瀬田駅（勢多馬家）があった場所と推定されています。

でも、ここは電車の役ではありません。当時、都と地方の役所との様々なやり取りは、馬や使者が運ぶ手紙で伝えられました。そのため、各地をむすぶ道路や馬を常駐させる中継施設（駅）が整備されたのです。こうしたやり方を駅伝制といいます。

体育の駅伝競走の甘えは、ここからきています。

瀬田工業高校の横を通る道路
正面左の森が堂ノ上遺跡です。

瀬田工業高校の北側を通って瀬田川のほうに
びる道は、古代の道路(東山道)と同じ場所を通
ているんだよ。
むかしは、この道を通って平城京から東北地方
まで行けたんだ。



堂ノ上遺跡（史跡）

古代の道の北側に塀で
囲まれた瓦葺きの大型建
物が見つかりました。